

ごみ拾い

静岡県 静岡サレジオ中学校 1年 吉富 輝

ぼくが最近心がけていることは、陸上競技場のごみ拾いです。ぼくは小学5年生のときから陸上クラブに所属していて、清水総合運動場を使用しています。とても広く、芝がきれいな全天候型の競技場なのですが、競技場の中や周辺にはいろいろなごみが落ちています。例えば、飲料のペットボトルやお菓子の包装、ビニール袋、たばこの吸い殻などです。たばこの吸い殻は、心無い大人が捨てていますが、ほかは置き忘れたり、風で吹き飛ばされてしまった悪気のないごみが多いようです。

ごみ拾いといっても、ビニール袋に拾ったごみを入れて、自宅に持ち帰って家のごみ箱に捨てるだけなので、大した手間ではありません。清掃活動というほどではなく、気づいたときにできる範囲でごみを拾うようにしています。

ごみを拾って競技場がきれいになると、陸上の練習も気持ちよくできるようになりました。ごみ拾いをしただけなのに、自分の気持ちがこんなによくなるとは思いませんでした。小学校の行事で三保海岸の清掃活動に参加したときにも感じたものです。

ごみを拾うといいことは、環境がきれいになると、自分の気持ちもよくなることです。少なくとも自分のごみを捨てなくなります。以前父から、「割れ窓理論」という話を聞いたことがあります。1枚目の窓ガラスを割るのは気が引けるけれども、割れている窓があると、ほかの窓ガラスを割るときの心理的抵抗は少なくなるという話です。同様に、ごみが放置されているとごみがさらに捨てられやすくなり、逆にごみが全くないと、ごみが捨てられにくくなると考えられます。ぼくが、ごみのない状態を作ること、次のごみが捨てられなくなるとしたら、自分のごみを拾うことがとても意義のあることと思えるようになりました。

先日、テレビ番組で、プロ野球の日本ハムの大谷翔平選手がおもしろいことを言っていました。勝負の世界では運も必要で、運をよくするために大谷選手はごみを拾うことを心がけているそうです。大谷選手のような名選手でもごみを拾うのは意外でした。「ごみを拾うと運がよくなる」は初耳ですが、ごみ拾いの目的としては、とてもおもしろいと思いましたし、自分もごみを拾うことが少し楽しくなりました。

以前は、清水総合運動場のごみを拾っていましたが、最近は中学の陸上部でお世話になっている草薙総合運動場のごみも拾っています。これからは、気づいたときには、運動場に限らず進んでごみを拾っていきたいと思います。運がよくなることもちょっとだけ期待しています。